

生物科学学会連合 第4回定例会議 議事録

日時：2012年3月19日（月）14:00～16:00
場所：東京大学山上会館 2階 201・202 会議室

出席： 運営委員

浅島 誠（生科連2011-2012代表・国際生物学オリンピック日本委員会委員長）
長濱 嘉孝（生科連副代表）
福田 裕穂（生科連副代表・日本植物学会・日本植物生理学会）
宮島 篤（生科連前代表） 入江 賢児（生科連前副代表）

学会代表

東原 和成（日本味と匂学会） 岩崎 博史（日本遺伝学会）
河田 光博（日本解剖学会） 大杉 美穂（日本細胞生物学会）
海老原 史樹文（日本時間生物学会） 株田 智弘（日本神経科学学会）
木下 タロウ（日本生化学会）
鳩貝 太郎（日本生物教育学会・国際生物学オリンピック日本委員会副運営委員長）
光岡 薫（日本生物物理学会） 桑島 邦博（日本蛋白質科学会）
真行寺 千佳子（日本動物学会）
武田 洋幸（日本発生生物学会・国際生物科学連合理事）
神崎 亮平（日本比較生理生化学会） 山本 和俊（日本比較内分泌学会）
濱崎 恒二（日本微生物生態学会） 樗木 俊聡（日本免疫学会）
石井 邦雄（日本薬理学会）

（計19学会22名）

欠席：個体群生態学会 日本宇宙生物科学会 日本進化学会 日本神経化学会
日本生態学会 日本生理学会 日本分子生物学会

（計7学会）

中西 秀彦 山口 恵子（事務局）

（敬称略、学会名五十音順）

議長：浅島 誠

- ・本会議は「生物科学学会連合の運営規約」第3条により開催された定例会議である。会員出席数および欠席委任状の数の合計が総会員数の2/3以上となったため、同規約第10条により、本会議における満場一致の議決事項については本連合の議決事項として採用される。
- ・本会議は本連合設立時の第1回連絡会議より通算して第29回目の全体会議に相当する。

議題・報告：

1) 前回議事録の承認

前回議事録案が確認され、承認された。

2) 生物科学学会連合平成23年度会計報告

事務局より報告が行われ、承認された。本定例会議以後、この報告内容をもとに会計監査が行われ、その結果は次回定例会議にて報告される予定となる。

3) 生物科学学会連合の今後の活動方針について

浅島代表より今後の活動方針案の提示がなされた。

①情報の発信

学術会議の動向や法人化、ポスドク問題、科学研究費、IBO（国際生物学オリンピック日本委員会）、IUBS（国際生物学会連合）、国内外のライフサイエンス関係の情報、学会活動の情報等を年2回の定例会議での口頭報告だけではなく、ニュース

レター、あるいはメールのかたちで各学会に発信する。また質問なども順次うけつける。

代表より提示された上記活動方針について、承認された。

②学会情報の集約と発信

例えば法人化に対する各学会の対応状況や、大会・シンポジウム情報などは、生科連事務局では各学会から連絡のない限り把握することができず、またそれを学会間で共有することもできない。こうした現状をあらため、情報集約と発信力を強化する。

代表より提示された上記活動方針について、承認された。

③加盟学会の増大

加盟学会数の増加は、本連合の財政基盤を固め活動を活発化させる上で必要不可欠であり、また研究者の要望や意見を表明するにあたっては連合体としてはたらきかけることが有効であるという浅島代表からの提示を受け、今後具体的にどの学会へ入会を勧誘するかについて議論がなされた。

浅島代表からは加盟学会について、本連合としては少なくとも基礎生物学で分野や領域が遍く網羅されている状況を作り、さらにその周辺領域へと広げたいという見解が示された。

加盟学会数や総会員数の大きさは、現実問題として行政側からの注目度に影響すること、一方で連合体がカバーする分野・領域についての考慮も重要であることなどが指摘された。

まずは日本海洋学会、日本魚類学会、日本昆虫学会、日本実験動物学会、日本獣医学会、日本生物工学会、日本農芸化学学会、日本病理学会へ入会の勧誘をすることが承認された。

④日本からのジャーナル発信力の強化

若い研究者が日本のジャーナルに投稿しなくなっている。この間に中国のジャーナルがインパクトファクターをあげアジアジャーナルとしての地位をジャパニーズジャーナルから奪いつつある。我々としては発信力を維持することは研究体制の維持の上でも非常に重要と考える。文科省サイドからは学会がある程度まとまってジャーナルを出すということならば、補助金の付与を検討すると聞いているので、この主導や文科省との調整を、当連合会を通じて行いたい。

具体的には、ジャーナル検討ワーキンググループを立ち上げる。WGの活動としては、生科連加盟学会のジャーナル責任編集者に集まっていただき議論いただく場を設定し、その結果を集約するなどが考えられる。

代表より提示された上記活動方針について、承認された。

⑤その他

(1) 東日本大震災を契機に、必要が再認識された課題

例えば文化財には国宝・重文等の評価基準があるが、標本に関しては学術会議でも分科会ごとに単独で議論されている状況。大きな流れの中で議論してまとめ、今後の流れを打ち出すよう、生科連として働きかける。

代表より提示された上記活動方針について、承認された。また本件に関連して、副代表の長濱氏より自然史博物館構想の動向について紹介がなされた。

(2) ポスドク問題、博士課程進学者減少の問題について

Ph.D を持っている人の就職口を広げることは喫緊の課題である。ポスドクを、任期があっても繰り返し雇用が可能なひとつのポジションに展開していく、あるいはベンチャーを育てるような新しい制度を作る等のアプローチが考えられるが、大学の就職担当者の現場では、他大学の実際の取り組みがわからない、知りたいという声がある。まずは、大学院進学者のキャリアパスの紹介、情報交換を目的として、就職率の高い

大学院の就職担当者呼んでシンポジウムを開催し、その結果をふまえて提言の形にする。

代表より提示された上記活動方針について、承認された。

ロードマップとしては代表より以下の提案がなされ、承認された。

- ・2012 年中に、情報発信の強化、加盟学会の勧誘、学会情報の集約などを開始する。
- ・2013 年～2014 年の代表において、ジャーナル発信力の強化をお願いするとともに、生物科学の統合体のあり方について検討を行う。
- ・2015 年以後早い時期に、各個別学会に諮った上で、あらたな統合化された「生物科学学会連合」を立ちあげる。

加盟学会から、男女共同参画の点も含めたキャリアパス問題への対応や、科研費などのファンディングのあり方についての検討も活動方針に含めてほしいとの意見があり、承認された。

4) 平成 24 年度補正予算案及び平成 25 年度予算案について

今後の活動方針案に関連して、これを実行するためには本連合の財政基盤と事務局機能を強化する必要があり、加盟学会に負担いただいている運営費(会費)を、現在の 3 万円から、平成 25 年度より 5 万円にさせていただきたいとの依頼が浅島代表よりなされた。

- ・運営費を上げる根拠の一つとして、これまでしていなかった新しい事業を行うということが確認された。
- ・活動方針に則した予算案の検討にあたり、実際には運営費以外に各学会へ負担をお願いせざるをえない費用があることを、この際明確にしておくべきという意見があった。その一例として、会合出席者の旅費がある。本連合の定例会議や運営委員会への出席者の旅費は、本連合の会計から支出していない。今後、さまざまなワーキンググループが動き出す場合にも、やはり何らかの負担をお願いせざるをえないことが見込まれる。本連合の活動が軌道に乗るまでは、その点各学会にご理解いただきたいとの依頼が、浅島代表より各学会へなされた。
- ・平成 24 年度補正予算案については事務局提案の委託費を 855,000 円とする予算案が承認された。
- ・平成 25 年度予算については、運営費(会費)を 5 万円とすることを前提になっており、今回は承認せず、次回に以下の点を加味した上であらたな案を提出することとなった。委託費値上げについては金額の根拠について中西印刷から文書の提出を求めることとする。
 - ① 平成 25 年度の支出総額を 30 学会 5 万円の 150 万円以内とすること。たとえば、パンフレットは 4 頁のままでレイアウトを工夫する。
 - ② 年間業務委託費は原案の 1,050,000 円ではなく 855,000 円とすること。

5) 法人化の問題について

浅島代表から、学会体制強化のため、学会の法人化を進めるべきであるという説明があった。ただし、会計管理には費用と手間がかかるのは承知して欲しい。当連合会でも対策を考えたい旨発言があった。

昨年 12 月に発生生物学会より法人化状況について依頼があり、生物科学学会連合でアンケートを行った。数字だけでなく内容も非常に参考になるものだが、公開について了解をえていないため、あらたな情報取得も含め、再度、公開について明示した上で再アンケートを行うこととなった。こういう情報の共有は非常に有益であるという発言があった。

5) IUBS (国際生物学会連合) について

IUBS 理事の武田氏より団体と活動の紹介がなされた。

6) IBO・JBO (国際生物学オリンピック) について

JBO 副運営委員長の鳩貝氏より団体と活動の紹介がなされた。かねてより JBO から本連合の後援名義使用申請があった「日本生物学オリンピック 2012 (JBO2012)」と「日本生物学オリンピックフォーラム in 岩手」について、これを承諾することが確認された。

7) 平成 25 年度・平成 26 年度代表選挙について

浅島代表より、本連合の次期代表選挙について手順の説明がなされた。大卒の日程としては前回の平成 23 年度・平成 24 年度代表選挙同様とすることが確認された。

候補者推薦に際し、加盟学会から過去の本連合代表等に関する資料の希望があり、7 月下旬に予定される代表選挙公示の折に配布されることとなった。

8) その他

- ① 浅島代表より、JST の J-STAGE が J-STAGE3 となり国際標準のレベルとなるべく努力していると紹介された。
- ② 科研費は次年度より申請の形式の変更が予想される。こうした情報についても連合から情報提供したいとの発言が浅島代表よりなされた。
- ③ JAXA ピアレビュー候補者推薦依頼について、浅島代表より各学会へ協力依頼がなされた。
- ④ 国際生物学賞受賞候補者推薦依頼について、浅島代表より各学会へ協力依頼がなされた。
- ⑤ 事務局強化のため、本連合の運営委員で前代表でもある宮島氏が、任期中庶務を担当することとなった。
- ⑥ 生物科学学会連合案内パンフレット 2012 版について、従来は本連合の会計年度である 1-12 月に合わせて当年 1 月 1 日現在の情報を各学会に提供いただいていたが、今回は 3 月末頃終了予定となることなどから、作成日程に間に合う期間内で情報差し替えを希望の学会へ対応し、学会ごとに任意の日現在での情報を掲載することとなった。
- ⑦ 次回定例会議は 10 月中旬に開催予定で、代表選挙が議題に含まれる見込み。

以上